

教会成長研究院

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (4)

二〇一五年七月二十八日付で、日本統一教会(現、家庭連合)元会長の江利川安樂氏が「退会届」を郵送してきました。そこには、文亨進様を中心とした米国のサンクチュアリ教会の下で、日本サンクチュアリ教会総会長兼協会長として出発するごありました。

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。これらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、誌面の都合上、文字数の制限があるため、詳しくは「真の父母様宣言文サイト」(http://trueparents.jp/)の掲載文や映像をごらんください。(教会成長研究院)

注・本文中、真の父母様のみ言は「青色」で、サンクチュアリ教会側の主張は「茶色」で色分けしています。

【3】独自の「祝福式」を行っている問題に対する応答

現在、サンクチュアリ教会では「真の神様と真のお父様の権威の下に戻るための祝福式」と題して独自の「祝福式」を行っており、「二〇一六年のお父様のご聖誕日までにサンクチュアリ教会の祝福を受けなければなら

ない」と主張しています。彼らは、「真のお父様の聖和後、真のお母様の下で行われた祝福式は『サタン主管下の祝福』である」と批判します。

この問題を原理的にどう考えるべきでしょうか。まず、サンクチュアリ教会で行っている「祝福式」は、今までの聖酒と違った「独自の聖酒」を作っているという問題がありま

す。聖酒について、真のお父様は次のように語っておられます。

「聖酒は、ただ作られるのではありません。ただそのまま、できるのではないということですから、サタンと神様の立ち会いの

もとに、霊界にいる数多くの天使たちの立ち会いのものと作られるのです。…聖酒を作る時は、霊界の霊人たちが来て、『頼むから一杯だけ注いで自分に飲ませてくれ』と強要します。聖酒を飲めば、復帰されることを知っているからです。それで、群れになって来て、しきりに『自分たちにも恵みをくれ』と言います。先生にはそれができるといふことを知っているのです。…『君たちは待ちなさい』と言つて、苦勞した皆さんに与えたのです」(八大教材・教本『大聖經』二二四三ページ)

霊人たちが来て、しきりに「飲ませてくれ」と騒ぐほどに、

聖酒は歴史的価値があるものです。それは、人間始祖の立場で勝利された真の父母様の勝利圏によって作られたものだからです。この聖酒式は血統転換の式です。

「聖酒式は何をするものでしょうか。新しい愛を中心として神様の体を自分の体の中に投入させる儀式です。墮落した体は一つしかないのです。神様の愛を中心として取り替えるのです。これが正に聖酒式だということです。イエス様が、『ハンは私の体を象徴するものであり、ぶどう酒は私の血を象徴するものなので、あなた方はそれをもらって食べ、飲まなければならぬ』と語ったのと同じように、愛を中心として、神様の実体を中心として、新しい血統を受け継いで原罪を洗い清め得る式です。この式を経ずしては、祝福の場に行けないのです。ですからこの式は、血統を転換させる式です」(同、

一二四一〜一二四二ページ)

人間始祖アダムとエバは、墮落することによって「神の血統」を失ってしまいました。その失った「神の血統」を、人間始祖の立場で勝利された真の父母様が、血統転換の式である聖酒式を通じて、私たちに伝授してくださいなのです。

真のお父様は、平和メッセージで、「天の真の血統をもってこられた真の父母様を通して祝福結婚を受けることが、正に真のオリープの木に接ぎ木される恩賜です。…血統は、父母が子女だけに与え得る特権中の特権です。…真の父母様が許諾された聖酒式を通して血統転換をし…真の家庭を探し立てられる道が大きく開かれました」(『平和神經』三四〇ページ)と語っておられますが、真の父母様によって作られた「聖酒」を用いて行うところに、「祝福」の意義と価値があります。

天一国聖酒は、真のお父様が聖和される前に、地上において作ってくださったものであり、たとえお父様が霊界に行かれた後であっても、その勝利圏は永遠であり、今も有効です。

キリスト教においても、イエス様が「昇天」されて霊界に行かれた後も、パンとぶどう酒による「聖餐式」で、霊的救いの恩恵が与え続けられていることと同じです。

したがって、「真のお父様の聖和後、真のお母様の下で行われた祝福式は『サタン主管下の祝福』というものではなく、決してありません。これは、完全な誤りです。

また、真のお父様が、「血統は、父母が子女だけに与え得る特権中の特権です」と語っておられるように、血統とは、あくまでも「父母」が伝授して下さる特権なのであって、子女によって与えられるものではありません。「血統転換」

や「血統の伝授」という「特権」を持つておられるかたは、どこまでも「真の父」と「真の母」、すなわち真の父母様だけであり、決して子女様ではありません。

ところが、サンクチュアリ教会では「独自の聖酒」を用いているのみならず、天一国聖酒を用いた「祝福式」の主礼の権限も、真の父母様から委譲されていません。ですから、彼らが行う祝福式は非原理的な祝福式であり、無効なのです。

【4】「真のお母様は、真のお父様と一体となっていない」という批判への応答

二〇一二年一月十九日、真のお父様は、天正宮博物館の訓読会で「お母様は、お父様とは違つ別の道を行っている。お父様の話を聞かず、お母様が『私の言葉を聞きなさい!』とするのは、ルーシエルよりもっと恐ろしい存在だ。そんなお母様

に従う者は小鬼だ。こいつら」と語られたと述べ、「真のお母様を真のお父様の前に立たせ、その後ろには石俊浪、尹晶老、黄善祚、金孝律の四人を立て、絶対服従を誓う儀式をされたらしい」、「お父様はお母様に対し、『ルーシエルよりも悪い。別の道を行っている』と言つて叱責されているので、『最終一体』となっているとは言い難い」と批判しています。

この問題について応答いたします。二〇一二年一月十九日に起こったという伝聞に基づいて、真のお母様は、真のお父様と一体化していないのだと判断することはできません。お母様が勝利されたのか、そうでないのかを、最終的に判断されるのは、神様とお父様しかおられません。私たちの次元で判断することは絶対にできないと言えるでしょう。

儀式があったとされるのは、二〇一二年一月十九日ですが、

その後、真のお父様は、真のお母様と共に同年三月二十四日(天曆三月三日)、韓国・清平の清心平和ワールドセンターで、「天地人真の父母勝利解放完成開門時代祝福式」を挙げておられます。

もし、真のお母様が「ルーシエルよりもっと恐ろしい存在」であったならば、真のお父様は、お母様を立てておふたりで「祝福式」の主札をされなかつたでしょう。

また、真のお父様は、同年四月十四日(天曆三月二十四日)、米国・ラスベガスの天和宮で訓誦会を終えられた後、「特別宣布式」を挙行されました。その宣布式で、お父様は次のように祈っておられます。

「真のお母様になることができる文鮮明、韓鶴子という二人の人が、墮落が存在しないエデンの園にあって、『善悪の果を食べたら、死ぬであろう』と言

われた、それ以前の位置に戻っていき……統一的な家庭に一つの中心、一体圏を成して、天の勝利の覇権的主権と天国を完成した、この全てを喜びとして歓迎いたします。……ここに、お母様とお父様がこのみ旨に従って苦勞したことを感謝しながら、全ての順序を天の前にこの時間、きれいに整理し、ささげる記念の時間として受け取られ、天に奉獻、敬拜することのできるこの時間を持ちましたので、お父様、喜びでこの時間をお受け取りください!」(『トウデイズ・ワールドジャパン』二〇一二年六月十日号、一八ページ)

そして、真のお母様に対して「お母様、ご苦勞様! お父様の前に挨拶して……」と語られ、真のお父様はお母様の敬拜を受けられたうえで、「創造主の権限を再び回復された、神様の絶対信仰、絶対愛、絶対服従の基準を中心として、天地人真の父

母定着実体み言宣布天宙大会を最終完成・完結することを、お父様の前に奉獻しますので、お受け取りください」と祈られました。

ここで、真のお父様は、「墮落が存在しないエデンの園にあって、『善悪の果を食べたら、死ぬであろう』と言われた、それ以前の位置に戻って」、「天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会を最終完成・完結することを、お父様の前に奉獻します」と祈られて、お父様と真のお母様のおふたりが最終完成・完結したことを宣布しておられます。

また、同年七月十六日(天曆五月二十七日)には、清心平和ワールドセンターで「アベル女性UN創設大会」を挙行され、真のお父様は、真のお母様を総裁として立てられました。もし、お母様がお父様に反逆しておられ、失敗しておられるならば、お父様はあえてお母様を総裁として立てられなかったこと

でしょう。

もし、真のお父様が、真のお母様を失敗したかたであると判断されていたならば、人類救済に執念を燃やし、全生涯を神様の解放のためにささげてこられたお父様であられるがゆえに、人類救済に対して責任を持たれた立場から、お母様に代わる人類の「真の母」を、誰か他に立てておられたものと思われず。しかし、お父様は、最後の最後までお母様を立てられたのであり、最新にはお母様との間で次のように会話されました。

「私(お母様)は、お父様と約束しました。『どんなにみ旨が大変でも、自分の代で終わらせます』と言いました。そして、お父様に『神様の創造目的を、創造理想世界を成し遂げてさしあげます』と言いました。……そのために、私は変わらないでしょう。お父様が逝かれる前、お父様は私に……『本当にすま

ない、本当にありがとう』とおっしゃいました。私は、皆さんと一緒に、お父様が残されたみ旨を成し遂げてさしあげたいのです。落伍者となる息子、娘がいないことを願います。それが、私の願いでもあります。お父様も願われることです」(『真の父母経』一五〇二〜一五〇三ページ)

以上のようなやり取りが、真のお父様と真のお母様の間であったことを考えると、最後の最後までお父様はお母様を立てておられるのであり、お母様に対して「み旨成就」を託してから聖和していかれたことが分かります。これらの事実を踏まえ、考えると、お父様とお母様は、完全一体となっておられるのです。

【5】「真のお母様は完成しておられない」という批判への応答

サンクチュアリ教会側は、二

〇〇七年五月十一日、真のお父様が「今やお母様は二〇一三年六月十六日までに自分を完成させねばなりません」と語られたと主張し、「基元節の時点において、『お母様は完成していません』と批判しています。

この問題について応答いたします。韓国語のみ言の原文を見ると、「お母様は、今や二〇一三年二月十六日までにこのことを完成しなければなりません」(二〇〇七年五月十一日)となっており、真のお母様が自身のこととを指して「完成させる」と語っておられるではありません。しかも、期限となる日付の「二〇一三年二月十六日」に「二〇一三年六月十六日まで」となっており、基元節(陽曆二月二十二日)よりも遅い日付に変更されています。

この批判は、み言の正確な引用に基づいて行われているものであり、稚拙な批判です。

【6】真のお母様が真のお父様の椅子に座られたことに対する批判への応答

文亨進様は、「真のお母様は(自分を)神の血統と宣言し、真のお父様の玉座に座るようになりました」と言って、批判されています。そして、お母様がお父様の椅子に座っておられる写真を見せ、「お父様の座を奪おうとしている」かのように批判しておられます。

真のお父様は、「すでに真の父母様ご夫妻は最終一体を成して、完成、完結、完了の基準で、全体、全般、全権、全能の時代を奉獻宣布されたのです」(『トウデイズ・ワールドジャパン』二〇一二年七月一日号、二〇ページ)と語っておられますが、そのみ言に基づいて、お父様と真のお母様が「最終一体」となられたと確信する食口ならば、信仰的な立場から「お母様は同じ椅子に座られるほどにお

父様を慕っておられ、一体化しておられるのだ」と捉えます。ところが、サンクチュアリ教会を支持する人々が、その同じ場面を見たとき、「真のお母様は真のお父様の座を奪おうとしている」と批判してしまつのは、お母様を「不信の目」で見ているからに他なりません。

一般の社会でも、亡き伴侶を本当に慕って愛していた人であればあるほど、最愛の人の「残り香」がある場所には触れたくなくなるし、思い出のある場所には座りたいと願うことでしょう。そして、いつまでもそこに居たいとまで思うものです。

ましてや「空前絶後」の永遠なる唯一の真の父母様です。完全一体となっておられるがゆえに、そのようなことをなされていくと見るべきでしょう。そのような、慕わしい目、信仰の目によって、真のお母様を見詰めることができるようになることを願います。